

La lumière et le vent
en Bretagne,

collection du musée
des beaux-arts de Quimper

BRETAGNE

カンペール美術館から一挙来日

クールベから
ゴーギャン、
ボナールまで

フランスの画家たちを
魅了した神秘の地

ブルターニュの 光と風

会期中無休 | [開館時間]9時~17時(金曜日は20時まで開館)

※入場は閉館30分前まで ※4月13日は10時開場

※開館情報等に変更の生じる場合がございます。

最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

[主催]広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社

[後援]在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ、中国放送、広島テレビ、

テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

[企画協力]ホワイトインターナショナル

100

ワンコイン
100円絵景園



2024.4.13(土)—6.2(日)



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22
Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444
<https://www.hpam.jp/museum/>

【開催趣旨】

雄大な自然に育まれたエキゾチックな“異郷”ブルターニュへの旅を、広島で。

フランス北西部に位置し、深緑色の海と断崖が織りなす海岸線、深い森など豊かな自然をもつブルターニュ半島。ケルト系言語のブルトン語をはじめとする独自の文化を持ち、中世の香りを色濃く残すこの地は、伝統的、神秘的なイメージによって人々の関心をかき立ててきました。とくに19世紀以降、交通網の発達とともに多くの画家がブルターニュを訪れるようになると、近代化の波を逃れて手付かずのまま残された自然や、現地に暮らす人々の信心深く慎ましい生活を題材に、数々の優れた絵画が生み出されました。

本展では、フランス・カンパール美術館のコレクションを中心とする、44作家による65点の多彩な絵画作品を通じて、フランス内部の“異郷”ともいわれるブルターニュの豊かな魅力をご紹介します。

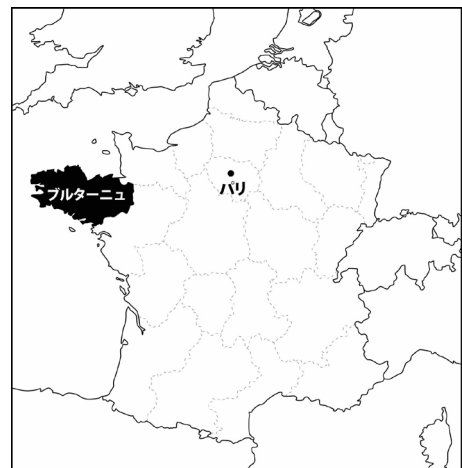


アンリ・モレ 《ポン＝タヴァンの風景》1888-89年
油彩・カンヴァス

【本展のポイント】

1. フランス、ブルターニュ地方の魅力を感じる

心揺さぶる荒々しい海、見渡すかぎりの雄大な草地や、神秘に包まれた深い森。あるいは、伝統衣装に身を包んだ人々が営む、この地ならではの暮らしなど——ブルターニュ独自の魅力を描いた絵画作品を通じて、旅するようなひとときをお楽しみください。



2. フランス近代絵画の展開をたどる

ブルターニュ地方は、近代美術の歴史に名を刻んだ場所としても知られます。ブルターニュの地が育んだフランスの画家たちの創意に触れ、彼らがそれぞれに発展させた個性豊かな絵画表現をご堪能ください。



アルフレッド・ギユ 《さらば!》1892年 油彩・カンヴァス

3. 一部を除き、作品の撮影が可能

本展では、一部を除き、作品の撮影が可能です。絵画で巡るブルターニュへの旅を通して、心に残った一枚の記憶をお持ち帰りください。

第1章 ブルターニュの風景 豊饒な海と大地

近代のフランスにおいて、ブルターニュは小説や旅行記、民間伝承などのロマン主義文学のなかで「未知なる土地」や「異郷」として紹介され、そのエキゾチックなイメージによって多くの画家たちを惹きつけてきました。1830年代以降、交通網の発達とともに、実際に自ら半島を旅する画家が増え、サロン（官展）でブルターニュ主題が流行します。本章では、圧巻の自然や信仰に基づく素朴な暮らしなど、典型的なブルターニュの姿を描き出した作品をご紹介します。



アルフレッド・ギユ《コンカルノーの翳加工場で働く娘たち》
1896年頃 油彩・カンヴァス



テオドール・ギュダン《ベル＝イル沿岸の暴風雨》
1851年 油彩・カンヴァス

第2章 ブルターニュに集う画家たち 印象派からナビ派へ

19世紀後半、ブルターニュの地で制作を行った画家たちが、フランス美術に新たな展開をもたらしました。南西部の小村ポン＝タヴァンに滞在したポール・ゴーギャンと、彼を取り巻く画家たちは、単純化された形態と大胆な色彩による新たな表現を生み出します。その様式と精神性は、パリにいたナビ派の画家たちへと引き継がれ、近代絵画はさらなる発展を遂げました。本章では、フランス美術史の舞台としてのブルターニュに着目し、印象派からナビ派へと向かう流れをたどります。



ポール・セリュジエ《さようなら、ゴーギャン》
1906年 油彩・カンヴァス



モーリス・ドニ《フォルグエットのパルドン祭》
1930年 油彩・カンヴァス

第3章 新たな眼差し 多様な表現の探求

ブルターニュで生まれた絵画様式がパリに伝わり、影響を与えた一方、ブルターニュの画家たちにとってもパリの美術動向は無視できないものでした。本章では、ブルターニュに拠点を置き、黒を基調とする画面によってパリ画壇で注目を集めた画家グループ「バンド・ノワール（黒い一団）」や、点描によって鮮やかな色調を生み出す新印象派、フォーヴィスムやキュビズムの前衛的な様式など、画家たちが追い求めた多様な表現によりブルターニュの風景や人物を描いた作品をご紹介します。



フェルディナン・ロワイアン・デュ・ピュイゴドー
《葺き屋根の家のある風景》
1921年 油彩・カンヴァス



ピエール・ド・ブレ 《ブルターニュの女性》
1940年 油彩・カンヴァス

※全てカンパール美術館蔵 collection du musée des beaux-arts de Quimper

カンパール美術館について

1872年、ブルターニュ地方のフィニステール県カンパール市に開館。1864年に遺贈されたジャン＝マリー・ド・シルギー伯爵の収集品を基に、当初はヨーロッパ各国のオールドマスターによる絵画を所蔵していましたが、1880年代、館長のアルフレッド・ボーがブルターニュの伝統を守るべく、地域に取材した絵画作品の収集を開始。今日、フランス随一の「ブルターニュ絵画」コレクションを誇る美術館となっています。



© musée des beaux-arts de Quimper

【関連イベント】

① 記念講演会「ブルターニュの光と風」

日時：4月13日（土）13：30～15：00 [開場13：00]

講師：千足伸行（当館館長、本展監修者）

会場：地階講堂

※聴講無料 ※要事前申込（電話082-221-6246）

② 講演会「ブルターニュの言葉と文化」

日時：5月11日（土）13：30～15：00 [開場13：00]

講師：大場静枝（広島市立大学教授）

会場：地階講堂

共催：広島県立美術館友の会

※聴講無料 ※要事前申込（電話082-221-6246）

③ 美術講座「画家と旅するブルターニュ」

日時：5月26日（日）13：30～15：00 [開場13：00]

講師：森万由子（当館学芸員）

会場：地階講堂

※聴講無料 ※要事前申込（電話082-221-6246）

④ 学芸員によるギャラリートーク

日時：4月19日（金）、5月3日（金）、5月17日（金）

11：00～、18：00～

会場：3階企画展示室 ※要入館券

⑤ 学芸員によるインスタライブ

日時：4月23日（火）、4月30日（火）、5月28日（火）

17：00～

公式Instagramはこちらから



⑥ ロビーコンサート

「ブルターニュの調べ～“シャリヴァリ”と呼ばれて」

日時：4月27日（土）15時～

演奏：藤岡竜輔（フルート、ホイッスル、ボンバルド、ブズーキなど）、
サイファー・斗亜（歌、フィドルなど）、
Machiko（ハープ、コンサーティーナ）、
サイファー・ジェイソン（ウッドベース）ほか

会場：1階ロビー ※鑑賞無料 ※事前申込不要

⑦ 「ル・トリスケル」勇崎シェフおすすめシードルのご提供

会期中、1階ミュージアムカフェにて、広島市中区のフランス料理店「ル・トリスケル」のオーナーシェフ、勇崎元浩氏おすすめのシードル（りんご酒）をグラスで販売します。

⑧ ブルターニュの食・風土を味わう

ブルターニュにまつわる料理や雑貨のお買物を、キッチンカーやティールーム、グッズ売り場でお楽しみください。内容の詳細は当館HP、SNSで随時ご紹介します。

⑨ 映画「燃ゆる女の肖像」特別上映

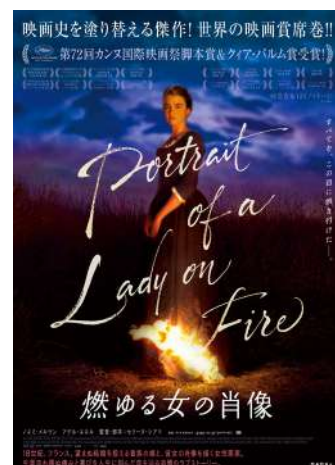
ブルターニュの孤島を舞台に、女性画家と貴族の娘の愛を描いた2019年カンヌ国際映画祭受賞作を、本展開催に合わせて上映します。

詳細はサロンシネマHP (<https://johakyu.co.jp>)にて。

日時：4月19日（金）～4月25日（木）

会場：サロンシネマ

（広島市中区八丁堀16-10 広島東映プラザビル8F）



【関連概要】

メインタイトル：ブルターニュの光と風

英語名：Light and wind in Brittany

会期：令和6年4月13日（土）～6月2日（日） 会期中無休

開館時間：9：00～17：00（金曜日は20：00まで開館）

※入場は閉館の30分前まで ※4月13日は10:00開場

料金：一般 1,500円 高・大学生 1,000円 小・中学生 700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※会期中、本展チケットのご提示（半券可）により、100円で縮景園にご入園いただけます。

※学生券をご購入・ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者（1名まで）の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

※前売券は、広島県立美術館、セブンチケット（セブンコード：104-069）、ローソンチケット（Lコード：62155）、チケットぴあ（Pコード：686-810）、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、

中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

企画協力：ホワイトインターナショナル

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 森 万由子

広報担当：総務課 一色 直香

公式 SNS はこちらから



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。（ボールペンなど使用不可）